

令和6年9月30日

発生予察及び病虫害防除等担当課（係）長 様

新潟県病虫害防除所業務課長

令和6年度新潟県病虫害発生予察速報第11号の送付について  
(ハスモンヨトウ等の急増について)

このことについて、別紙のとおり送付しますので、防除指導の参考にしてください。

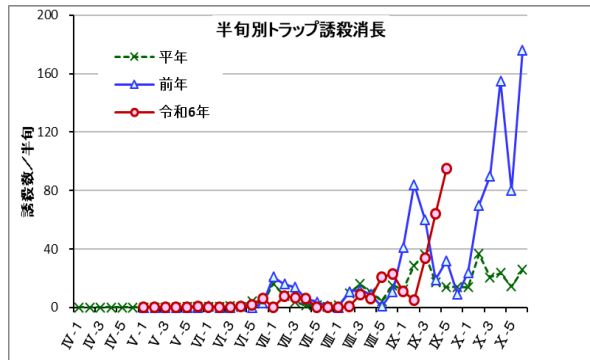
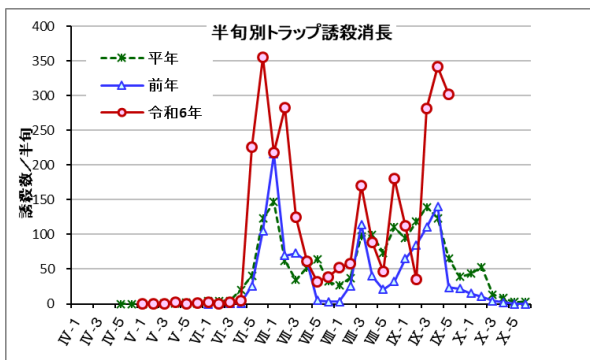
(情報の問い合わせ先)

	TEL	FAX
新潟県病虫害防除所	0258(35)0867	0258(35)7445
〃 下越駐在所	0254(27)5518	同左
〃 佐渡駐在所	0259(63)3185	0259(63)4386

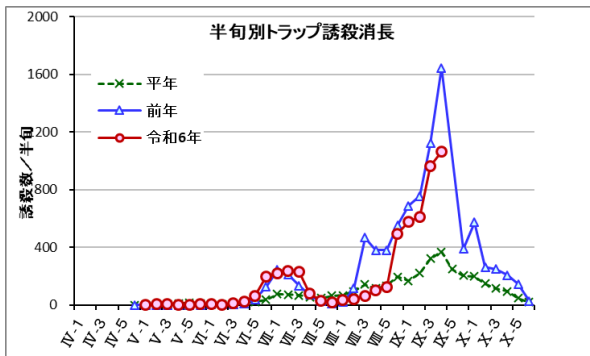
令和6年度  
新潟県病害虫発生予察速報第11号  
(ハスモンヨトウ等の急増について)

1 発生状況

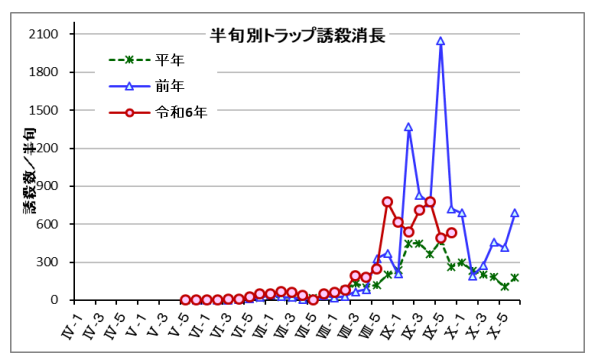
- (1) ハスモンヨトウは、佐渡地域では6月第5半旬から増減を繰り返し、下越、新潟地域では6月第6半旬から増加した。特に9月上旬から各地で誘殺数が急増した(図1、2)。
- (2) シロイチモジヨトウは、聖籠町真野(園芸研究センター)で9月第2半旬から誘殺数が増加し、胎内市菅田では9月第4半旬に平年比多となった(図3、4、5)。
- (3) 気象庁発表の向こう1か月予報では、気温は平年比高いと予想されており、上記2種の増殖や食害が助長されると考えられる。



佐渡市中興(佐渡農技セ)



聖籠町真野(園研セ)



新潟市西蒲区松野尾

五泉市木越

図1 各地のフェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数



図2 ハスモンヨトウの中齢幼虫

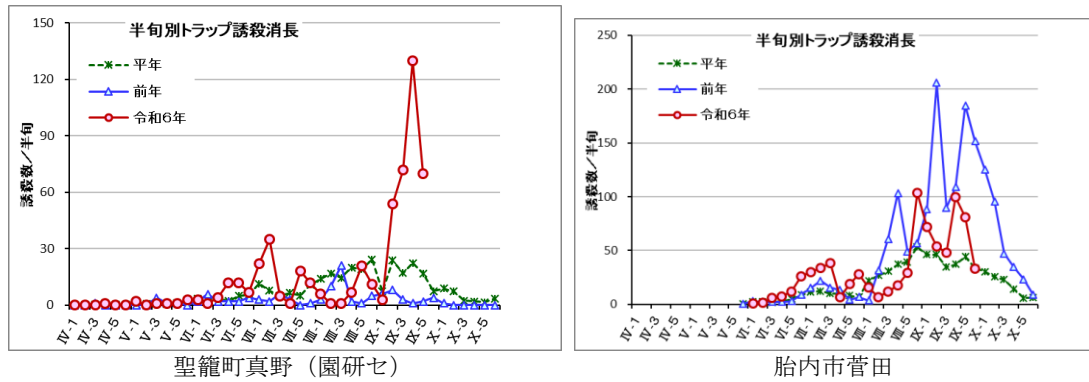


図3 各地のフェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数



図4 シロイチモジヨトウの食害



図5 シロイチモジヨトウの中齢幼虫

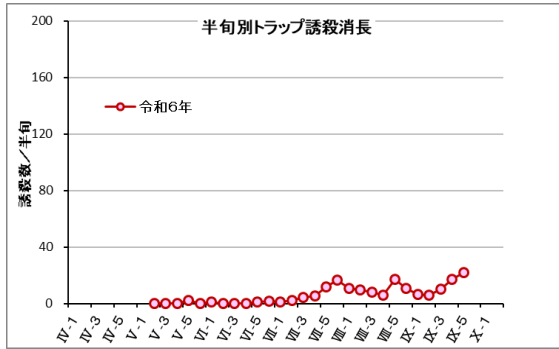
## 2 今後の対応と注意点

- (1) ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウとも広食性の害虫であり、作物、果樹、野菜、花き類などを食害する。幼虫の発生に注意し、ほ場を見回って卵塊や若齢幼虫の早期発見と除去に努める。また、ほ場周辺の雑草に寄生が認められた場合も除去する。
- (2) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が大きく低下する。このため、若齢幼虫期に株全体に薬液が十分かかるようにていねいに散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防止するために、作用機構の同じ薬剤の連用を避ける。作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用する。

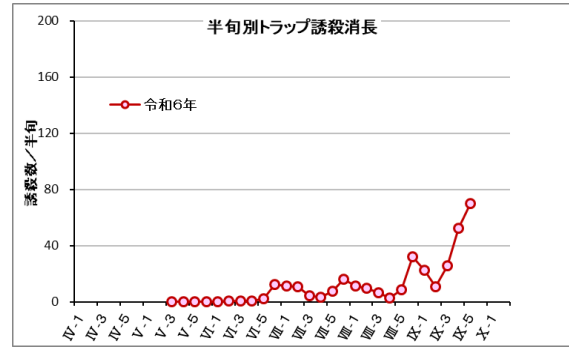
## \*参考情報 トマトキバガ

### 1 発生状況

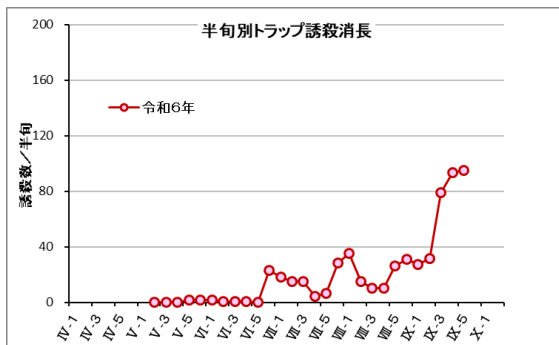
- (1) 本年は5月から県内各地のフェロモントラップで少数の誘殺が見られ、6月第6半旬から誘殺数が増加している。9月第5半旬の誘殺数は新潟市南区西白根で138頭、新潟市南区西笠巻で95頭、新潟市北区白勢町で70頭となった(図6、7)。
- (2) 7月上旬に新潟市西蒲区松野尾のミニトマトハウス内で、幼虫による若い葉や果実の食害が県内で初確認された。露地栽培での被害は未確認である(図7、8)。



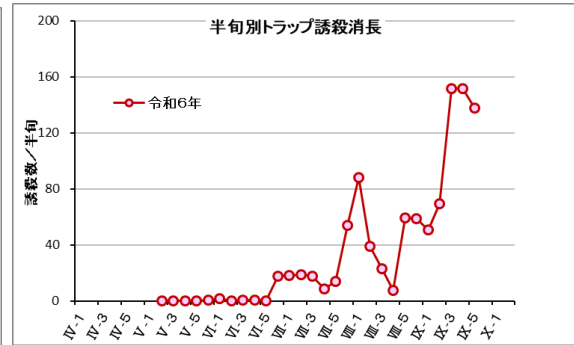
聖籠町真野（園研セ）



新潟市北区白勢町



新潟市南区西笠巻



新潟市南区西白根

図6 各地のフェロモントラップにおけるトマトキバガの誘殺数



図7 トマトキバガの成虫



図8 トマトキバガの食害

## 2 防除上の注意事項

- (1) トマトキバガの発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋設するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (2) 令和6年7月1日現在、トマトキバガに対しての農薬登録は、トマトおよびミニトマトのみである。農薬散布にあたっては最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>)